

HOME > コラム > コラム

コラム

認知症全般知識に役立つコラム

認知症学会専門医 占部 新治先生による、「認知症全般知識に役立つコラム」です。第1～第4 金曜更新！

第1章 症状の話 第2節 最初の兆候

1項・よく聞かれる最初に出現するサイン

家族や知人が気づく「もしかして？」

認知症の発症時期を指摘するのは、大変困難なこととして、この時点ですと指し示すことは残念ながらできません。

しかし、「今思えば、この頃ではなかろうかと言う見当がつく」とおっしゃるご家族や知人の方もいらっしゃいます。そう思われるエピソードについては本当に様々です。

これまでに実際にご相談のあった、「最初の兆候エピソード」をご紹介します。

episode

翌日の約束をしたが当日にはもう忘れていた。せっかく前日に確認をしたのに忘れていたので、どうしたのだろうと、前日の確認したときの話を思い返してみたが、しっかりと返事をして分かったと返事をされていたのに、忘れていて「おかしい」と感じられた。その人となりや、確認をしたことの状況などを考えると、いつもと違ってい

るという結論に行き当たる。

episode

真剣に部屋中を引っ掻き回して探し物をしていたので、よほど重要なモノなのだろうと、心配して何を捜しているのかを尋ねてみると、「何を捜していたのかな？」と思案顔になってしまった。あんなに必死になって探していたのに！？と大よそ予想もしない返答に驚かされた。

このような「約束を忘れる」や「何をしているのかわかっていない」または「何をしていたか覚えていない」は、最初の兆候として、家族や知人の話から聞かれることが多い例です。

「おかしいなあ」と感じられる状態が最初の兆候

episode

作業をされていて、その時使用していた機器の操作レバーを忘れたり、スイッチを押すのを忘れていたり、今作業していた機器なのに忘れてしまう。このような目の前の、時間的にすぐ前の操作のことを忘れている。

こうした手違い操作手順の忘れにその場に居合わせた人には驚きのエピソードとして最初の兆候だったと話していただけることも少なからずあります。

episode

部屋が以前と違って、乱雑なモノの置き方が目につくようになり、ほっておくと汚れてカビが生えたり、虫が湧いたりという状況になる。

変化が目について、おかしいなあと感じられる状態が最初の兆候として、捉えられていることも多いです。

episode

建築業の方で、工事の入札に行って金額を書いた紙を会場の前に置いてある箱に入れて、自分の席に戻ろうと振り返った途端、自分の席が分からず、とあえず会場内の側面の壁まで行って入札が終了するまで立っていた。

という劇的なエピソードの最初の兆候もありました。